

建築家 通信

2022.3.31
vol.125

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会
JIA長野県クラブ

<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com

「建築の公共性について」

株式会社プランツアソシエイツ代表 宮崎 浩



長野県立美術館 写真：走出直道/エスエス



建築は、クライアントからの依頼を受け、毎回異なる敷地や用途にあわせて、与えられた予算や法規、工期の中で答えを見つけなければならない。絵画や彫刻等の純粋なアートと異なり、自分が思っていることを条件なしに自由に表現することはほとんどできないが、その中でいかに最適な解を見出していくかが設計者の職能であり、楽しみだと思っている。

中でも、公共施設の設計は、関係する人たちも多く、設計工期や予算も非常に厳しいものが多い。そこで常々強く意識していることは、(自身が持っている漠然とした建築のイメージを心に秘めながら)「公共施設におけるパブリックとは何なのか」ということである。

人々に、どうしたら出来上がった建物に親しみを持って末永く使い続けてもらえるか、それにはプロジェクトの初期から彼らを巻き込み、自分たちの施設だと思ってもらうことが何よりも重要だと思う。公共施設の場合、発注者ではない、こうした「見えない施主」とどう向き合い、彼らの思いをくみ取っていくかが、設計プロセスの中では非常に重要と考えている。

最近では、設計業務の中にワークショップが含まれることも増えてきたが、それが行政のアリバイづくりになってはいけない。ワークショップで決まると、安易に設計者や行政がそこに頼ってしまうことは、自らの職能の放棄であろう。

ワークショップでは、直接人々の意見を聞く、ということはもちろんであるが、設計者として、その場で「できる／できない」を明確に回答することが重要である。ワークショップとはいえ、全てを市民に委ねるわけではない。建築家として、自ら判断すべき範囲というのは当然あり、プロジェクト全体を見通した上で採用の可否を決めるのは、設計を託された専門家としての設計者の責任であると考えている。その上で、プロ

ジェクトの応援団となってくれる人々が生まれてくれればその施設の未来は明るい。(ワークショップに参加しない人々の声なき要望をイメージすることも、設計者の重要な役割であるが。)あわせて、発注者である行政側にも、税金を使ってつくる公共建築のあるべき姿について、プロとしての強い意志を持って取り組んでほしいと思っている。そこでの共同作業があってこそ、よい結果に繋がると信じているからだ。

そうしたことを考えながら、今回JIA長野県クラブによる建築祭にて、文化講演会と学生卒業設計コンクールに参加した。高校生のグループは、コロナ禍での開催ということで、残念ながらプレゼンテーションなしであったが、専門学校生と大学生からは直接話を聞くことができた。作品は、素直で微笑ましいものから、かなりレベルの高いリアリティを持ったものまでバラエティに富んでおり、審査員という立場上、点数をつけたが、いずれの作品も真摯に建築に向き合った好印象なものであった。

コロナ禍という数年前までは想像すらしていなかった事態に、世の中の風景や人々の生活は一変した。本格的な終息は未だ見えてこず、以前のように大勢の人々がマスクなしで集う景色が見られるのはもう少し先になりそうである。使われ方の変化はあっても、基本的な住まいの場、あるいは交流の場としての建築のあり方を追い求めるという設計の姿勢は変わらない。今回、出会った学生たちにも、自身の信念を持って、こわがらずに建築の道へ進んでほしいと思う。



まず初めに今回の第16回建築祭で、貴重なご講演をいただき、卒業設計コンクールの審査委員長を務めてくださいました宮崎浩先生そして審査委員の長野県建築士会萩原白会長、JIA関東甲信越支部慶野支部長、山梨地域会奥村代表に感謝申し上げます。



専門学校の部/プレゼン

昨年に引き続き、感染症の影響で開催方法を模索しながらの建築祭ではありましたが、無事に終わることができました。感染症の対応だけでなく例年とは違う会場での開催ということで、イレギュラーな決定事項も多く、その都度、躓きながらの運営ではありましたが、執行部の皆様、総務委員会、事務局そして何より事業委員の皆様を支えられながら、乗り越えることができました。1年間の準備委員会においてリアル開催なのかWEB開催なのか、社会の情勢とともに揺れ動いてはありましたが、宮崎先生から直接お電話をいただき「松本に行きます」の一言で、リアル開催に向けて方向性が定まりました。コンクールに参加した

学生にとっても、一線で活躍されている建築家と直接対面し、自分の作品をプレゼン・評価していただける機会が得られ本当に良かったと思っています。

今年は個人としても今回の卒業設計コンクールだけでなく、高校生から大学院生まで学生とともに建築を考える機会に恵まれました。高校生とは自分の暮らしている街の魅力を掘り起こし、どんなアクティビティを作れば活性につながるのかなどディスカッションを行い、デザインコンペに応募するアドバイスをしました。私としては彼らが自分の街を見直す機会ができ、物事をゼロから完成させる喜びを学んでもらえたらいいと思っていましたが、熱心に何度も私の事務所に通ってくる彼らを見ると将来の建築家を見ることができたようでうれしく感じました。

建築祭の卒業設計コンクールで素晴らしい作品を緊張しながらプレゼンしてくれた学生たちも将来どのように建築と向き合っていくのか楽しみにしております。



大学の部/プレゼン

長野県学生卒業設計コンクール 受賞者の声

大学の部 金賞

信州大学工学部 建築学科
南雲 裕太



大学の部 受賞者/前列中央が南雲さん

この度は長野県卒業設計コンクールにおいて金賞を受賞できたこと大変嬉しく思います。コロナ禍の中でも

対面での開催を実現して下さり運営にかかわっていただいた方並びに審査員の方々には大変感謝しております。

卒業設計では都市郊外の霊園における新しい樹木葬の形を提案しました。明治以降、死の象徴たる墓は都市から排除されてきました。また宗教的結びつきも弱まり死は日常から排除されかけています。そこで本提案では他者を排除してきた墓を公共に開き、墓と日常を緩く繋ぎ直すことを考えました。

本制作では考えを形にすることや表現し人に伝える難しさを実感しました。最後まで指導して下さいました先生、霊園を案内して下さいました霊園事務所の方、そして何より模型製作を手伝ってくれた後輩や同期に大変感謝しています。まだ設計や表現に至らない点も多いですがいただいた意見をもとにブラッシュアップを続けていきます。この度は本当にありがとうございました。

専門学校の部 金賞

上田情報ビジネス専門学校 建築インテリア科
中島 一平



専門学校の部 受賞者/前列右から2番目が中島さん

この度は、長野県学生卒業設計コンクールにおいて金賞を受賞できたことを大変嬉しく思います。

新型コロナウイルス感染症の脅威下でありながら、プロの建築家の方々からご指導ご鞭撻をいただける貴重な機会を頂いたことを心から感謝申し上げます。

卒業設計では、持続可能な社会を作るために自然と人を繋ぐキャンブ施設を設計しました。太陽光や風、地熱等の再生可能エネルギーの積極的利用や、地勢を最大限生かす事を重視し、自然と人が共生するための媒体となるような建築を目指しました。

作品を製作していく中で、設計の難しさ、図面と模型で相手に自分の考えを伝える大変さを実感しました。今回のコンクールにおいて自分の知識と技能の未熟さを改めて認識しましたが、今回このような評価を頂くことができて大変嬉しく思います。

今回得ることができた指摘事項を元に今後も設計に励みます。この度は本当にありがとうございました。

大学の部

- 金賞** 南雲 裕太 多摩 ForestSide Cemetery
— 郊外霊園における開かれた複合型樹木葬施設 —
- 銀賞** 嶋中 大和 長野駅前街区再編計画
— 幹曲路と斜線制限に着目して —
- 銅賞** 福田凱乃祐 現代版集落生成
第二の人生実践場へ進化する住宅団地の未来構想図
- 奨励賞** 勝山 詩乃 堀につくるまちの駅
- 奨励賞** 奥羽 未来 シン・人吉転換記
水害常襲地域における災害弾力性の獲得に向けた都市更新手法

専門学校の部

- 金賞** 中島 一平 ビッグ・シェル
(上田情報ビジネス専門学校)
- 銀賞** 由井廉之佑 響きの場
(上田情報ビジネス専門学校)
- 銅賞** 河西 裕翔 りんごの丘
～健康づくり いきがいくくり～
(上田情報ビジネス専門学校)
- 奨励賞** 宮崎 愛美・若林 大聖 (長野工業高等専門学校)
行くしない？寄ってくしない？高専前駅！

高校の部

- 金賞** 山川 維謙 知・職・住 ～起業家が集う場の提案～
(長野工業高校)
- 銀賞** 渡辺 慶丞 動物保護センター ティアリーヴェ
(上田千曲高校)
- 銅賞** 松林 花波 嫉妬 SA ～panselenon～
(上田千曲高校)
- 奨励賞** 高山 もあ 複合型ワイナリー ～Le Vin de Soleil～
(上田千曲高校)

開催したイベント

- 12月3日(金)… 冬のセミナー
- 1月6日(木)… 正副代表会
- 1月11日(火)… 幹事会 (第4回)
- 2月26日(土)… 建築祭・文化講演会
- 2月27日(日)… 建築祭・長野県学生卒業設計コンクール
- 3月25日(金)… 『信州の建築家とつくる家 第17集』 発行

今後の行事予定

- 4月5日(火)… 監査
- 4月6日(水)… 幹事会
- 4月22日(金)… 2022年度通常総会

編集後記

125号は建築祭についてです。開催から短期間で多忙の中、原稿をいただいた皆様に感謝します。宮崎先生にはコロナ禍でありながら講演や設計審査を直接していただき、生の声、大切と感じました。わかりやすい言葉で、ものづくりへの勇気、考える力、大切さ、大人の言葉を信じ過ぎるな、など、若い学生に向けて応援していたように見えました。直に審査員から言葉もらった専門高校生、大学生はこれからの活躍に生かされることと思います。今回も充実した2日間でした。…… 鈴木敏之

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。



公益社団法人日本建築家協会
The Japan Institute of Architects

編集人/鈴木 敏之 発行人/新井 優
発行所/JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内
TEL: 026-232-3897 FAX: 026-232-5303
<http://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com